

YAMAHA

MIXING CONSOLE

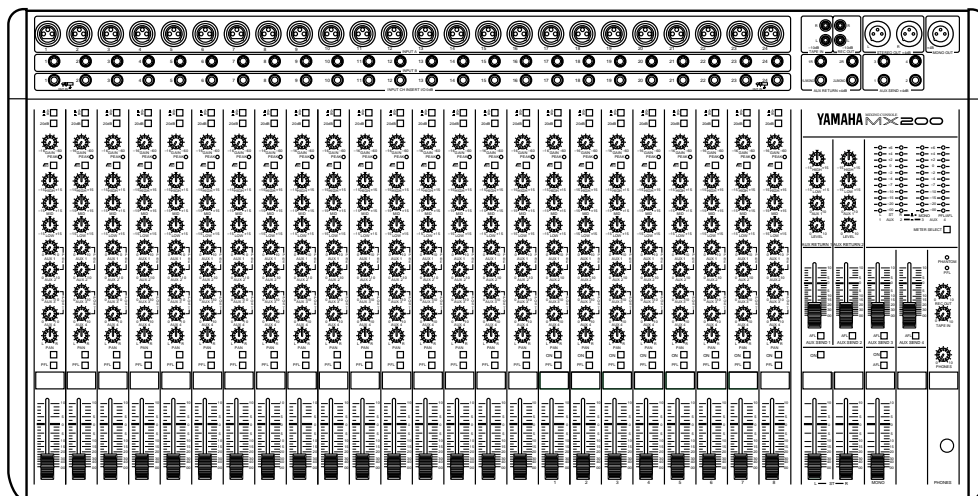
MX2000-8

MX2000-12

MX2000-16

MX2000-24

取扱説明書



はじめに

このたびは、YAMAHAミキシングコンソール MX200をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。MX200は、操作性、機能性、そして簡便性をバランスよく調和させたミキサーであり、あなたのよきヘルパーとなるものと信じております。本機の性能を十分に活用いただき、またいつまでも支障なくお使いいただくため、この説明書をよくお読みください。

特長

MX200-8は8CH、MX200-12は12CH、MX200-16は16CH、MX200-24は24CH、の入力チャンネルをもち、ステレオの状態にミキシングして出力します。

MONO OUT出力は、モニター用のサブアンプへの出力や位相補正などに用いると便利です。

PFL (Pre Fader Listen) 機能により、任意の入力チャンネルを、チャンネルフェーダーの前でモニターすることができます。

AFL (After Fader Listen) 機能により、ST OUT L, R、MONO OUT、AUX SENDの出力信号を任意のタイミングでヘッドフォンモニターすることができます。

INPUT A端子はXLRタイプコネクタ、INPUT B端子はフォンコネクタを採用し、接続はいたってスムーズです。

マイクロフォンからラインレベル機器まで幅広く対応できます。

ファントム電源を装備していますので、外部電源の必要なコンデンサーマイクロフォンも手軽に接続できます。全入力チャンネルにINPUT CH INSERT I/O端子を設けましたので、チャンネルごとに異なるエフェクター接続が可能です。

4系統のAUX SENDと、2系統のステレオAUX RETRUNを装備しています。

1イン/2アウトのエフェクターを2台接続してもまだ2系統のAUX SENDが使える余裕を考えた設計です。

テープデッキの再生や録音が手軽に行える、TAPE IN端子やREC OUT端子を装備しています。

目次

ご使用上の注意	1
コントロールパネル	2
チャンネルコントロール部	2
マスターコントロール部	4
コネクター部	6
リアパネル	7
セットアップ例	8
仕様	9
一般仕様	9
入力仕様	10
出力仕様	10
ブロック & レベルダイアグラム	11
寸法図	12

ご使用上の注意

設置場所について

次のような場所での使用は故障の原因となります。

- ・ 直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど。
- ・ 浴室など、湿度の特に高い場所。
- ・ 湿気やほこりの多い場所。
- ・ 振動の多い場所。

放熱対策について

本機の後面および底面には放熱用のスリットがあります。設置の際にはスリットをふさがないようにしてください。

無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えることは避けてください。

電源について

- ・ 本機は日本国内仕様です。必ず、AC100V（50Hzまたは60Hz）の電源コンセントに接続してください。AC100V以外の電源ではご使用にならないでください。

音響機器の取扱いルール

- ・ 本機と周辺の接続機器の電源を投入する際の順番は、音源側（楽器類）を最初に入れ、スピーカーにもっとも近く接続されている機器を最後に入れるようにします。これは、スピーカーを不用意に損傷することを避ける方法の一つです。
- ・ 音響ケーブルの接続は、各機器の電源をOFFにした状態で行うか、または各ボリュームを絞ってから行います。これも音響機器の保護につながります。

XLRタイプコネクターのピン配置

本機のXLRタイプコネクターは、IEC 268規格にもとづき配線されており、ピン配置は以下のとおりです。

1：シールド（アース） 2：ホット 3：コールド

分解はやめてください。

ケースを開けたり改造することは、故障や感電につながる場合がありますので、行わないでください。

外装のお手入れについて

外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプのスプレーを散布しないでください。外装のお手入れの際は、柔らかな布で乾拭きしてください。

落雷に対する注意

落雷の恐れがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜いてください。

保証書の手続きを

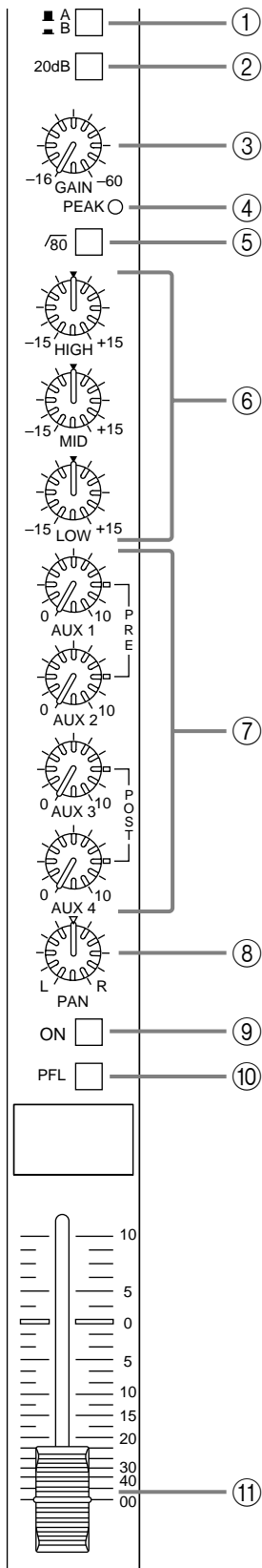
お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がない場合、保証期間中であってもサービスが有償となることがあります。

保管してください

この取扱説明書は、保証書とともに大切に保管してください。

コントロールパネル

チャンネルコントロール部



インプットセレクター

そのチャンネルの入力端子を選択します。

A (■) のときは、リアパネルのINPUT Aコネクター（バランス型XLRタイプ）からの信号が入力されます。B (■) のときはINPUT Bコネクター（バランス型フォンジャック）からの信号が入力されます。

PADスイッチ

減衰量20dBのパッドスイッチです。

入力信号のレベルが高すぎて、GAINコントロールで減衰しきれない場合には、これをONにします。

GAINコントロール

入力信号レベルに応じ、最適なレベルで入力できるよう、このつまみで感度を調整します。

のピークインジケータがたまに点灯する程度に設定すると、S/Nとダイナミックレンジのバランスがとれた良好な状態になります。さらに入力レベルを減衰させたい場合は、のPADスイッチを使います。

PEAKインジケータ

ポストEQのピークレベルを検出します。

クリッピングの手前3dBで赤色点灯し、クリッピングレベルに近づいたことを警告します。

80Hzハイパスフィルタースイッチ

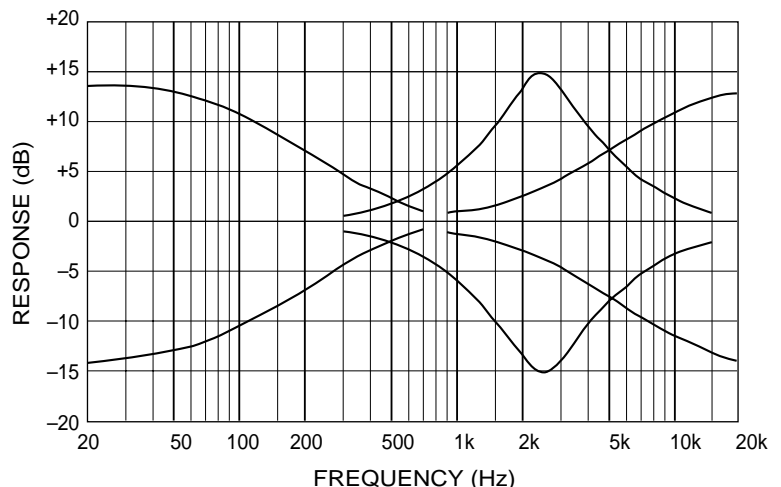
80Hz以下の信号を12dB/OctaveのバイパスフィルターでON, OFFします。

イコライザー

高域、中域、低域の各レベルを下記の基準周波数にて、最大可変幅 ±15dBの範囲でコントロールします。

- HIGH : 12kHz
- MID : 2.5kHz
- LOW : 80Hz

つまみ位置 “ ” でフラットな特性となります。



AUX1~4コントロール

AUXバスへ送り出す信号のレベルをコントロールします。

- ・AUX1およびAUX2コントロールは、チャンネルフェーダーの前に設けられていますので、AUX1,2バスの信号レベルはチャンネルフェーダーの設定とは無関係となります。
- ・AUX3およびAUX4コントロールは、チャンネルフェーダーの後に設けられていますので、AUX3,4バスの信号レベルはチャンネルフェーダーの設定にとまない変わります。

PAN (パンポット) コントロール

各チャンネルの信号を、STEREO L,Rバスに振り分け、音像をL-R間のどのあたりに定位させるかを決めます。

チャンネルONスイッチ

各チャンネルの信号をSTEREO L,Rバス、AUX1~4バスへ送り出します。

OFFにすると、各バスへの送出信号を完全にミュートします。使用しないチャンネルのスイッチはOFFにしておいてください。

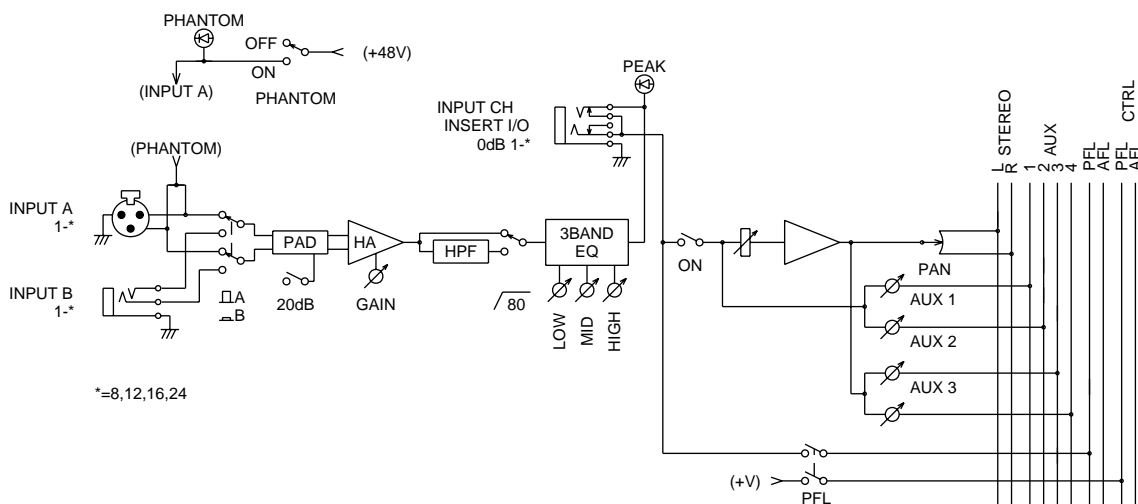
チャンネルPFLスイッチ

インプットチャンネルの信号をフェーダーの前のレベルでヘッドフォンモニターします。

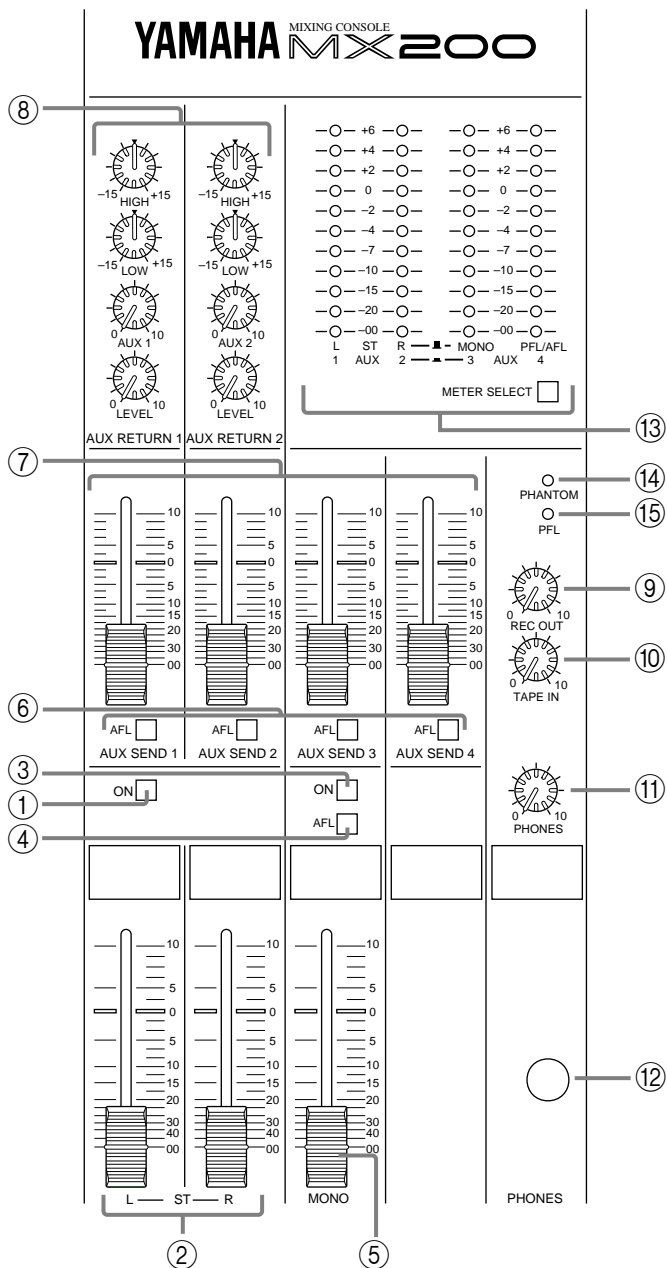
入力信号の音質を確認したい場合や、特定チャンネルのトラブルに対処したい、という場合に便利です。

チャンネルフェーダー

インプットチャンネルの信号の送り出しレベルをコントロールし、チャンネル間の音量バランスを調節します。使用しないチャンネルのフェーダーは下げてください。



マスターコントロール部



STEREO ONスイッチ

ST OUT出力をON、OFFするスイッチです。スイッチがOFFの場合、STメーターにはレベルは表示されません。MONO OUTへの信号は、このスイッチに関係なく送られます。

STEREO L, Rマスターフェーダー

全てのチャンネルの信号を最終的にまとめてレベル調整し、STEREO OUT端子へ送り出します。STメーターで、L, Rそれぞれの出力を監視できます。

MONO ONスイッチ

MONO OUT出力をON、OFFします。

MONO AFLスイッチ

スイッチをONにすると、MONO OUT端子に出力される信号を、ヘッドフォンで確認することができます。

MONOフェーダー

MONO OUT端子への出力レベルを調整します。

AUX SEND1 ~ 4 AFLスイッチ

AUX SEND 1~4への出力信号をヘッドフォンで確認したい場合に、このスイッチをONにします。このとき、スイッチをONにしたAUX SENDのレベルをメーター部のPFL/AFLに表示します。

AUX SENDフェーダー

AUX SEND1~4それぞれに出力する信号のレベルを調整します。レベルは ⑨のMETER SELECTスイッチ切り換えにより、メーター部で確認することができます。

AUX RETURN1, 2コントロール

< LEVEL >

AUX RETURN1, 2のL/MONO, Rに接続したエフェクター等からの信号をL, Rバスへ送り出すレベルをコントロールします。L/MONOにだけプラグが入力されたときは、同じ信号がL, Rバスへ送り出されます。

< AUX1 (AUX2) >

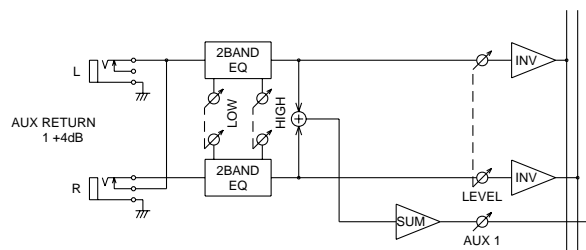
AUX RETURN1, 2のL/MONO, Rに接続したエフェクター等からの信号をAUX SEND1 (2) のフェーダーコントロールに送るレベルを調整します。信号はここで調整され、リアパネルのAUX SEND1 (2) から出力されます。

< LOW >

AUX RETURNに入力した信号に対してかかる低音域イコライザーで、80Hzシェルビングタイプです。

< HIGH >

AUX RETURNに入力した信号に対してかかる高音域イコライザーで、12kHzシェルビングタイプです。



REC OUTコントロール

REC OUT端子（コネクター部 ）から（テープデッキ等へ）の出力レベルを調整します。

TAPE INコントロール

TAPE IN端子（コネクター部 ）に接続したテープデッキ等のモニター音量を調整します。

PHONESコントロール

ヘッドフォン端子（PHONES）に接続したヘッドフォンの音量を調整します。

PHONES端子

ステレオヘッドフォンを接続します。

このヘッドフォン端子では、以下の信号がモニター可能です。

--- モニター可能な信号 ---

- ST OUT端子に出力されるメイン信号（すべてのPFL, AFLスイッチがOFF）
- 各インプットチャンネルに入力され、3バンドEQおよびINPUT CH INSERT I/O端子を経た後の信号（チャンネルPFLスイッチをON）
- MONO OUTに出力される信号（MONO OUTのAFLスイッチをON）
- 各AUX SEND1～4端子に出力されるAUX信号（AUX SEND1～4のAFLスイッチをON）

METER SELECTスイッチおよびメーター部

2種類の機能をもつLEDメーターで、METER SELECTスイッチでその切り換えを行います。

<METER SELECTがOFFの場合>

- STEREO L, R STEREO OUT端子の出力レベルを表示
- MONO OUTレベル MONO OUT端子の出力レベルを表示
- PFL/AFLレベル チャンネルPFLスイッチをONにしたチャンネルの入力レベルや、AFLスイッチ（マスターコントロール部 , ）をONにしたST, MONO OUT, AUX SENDの出力レベルを表示

<METER SELECTがONの場合>

- AUX SEND1～4 AUX SEND1～4端子に出力されるAUX信号のレベルを表示します。

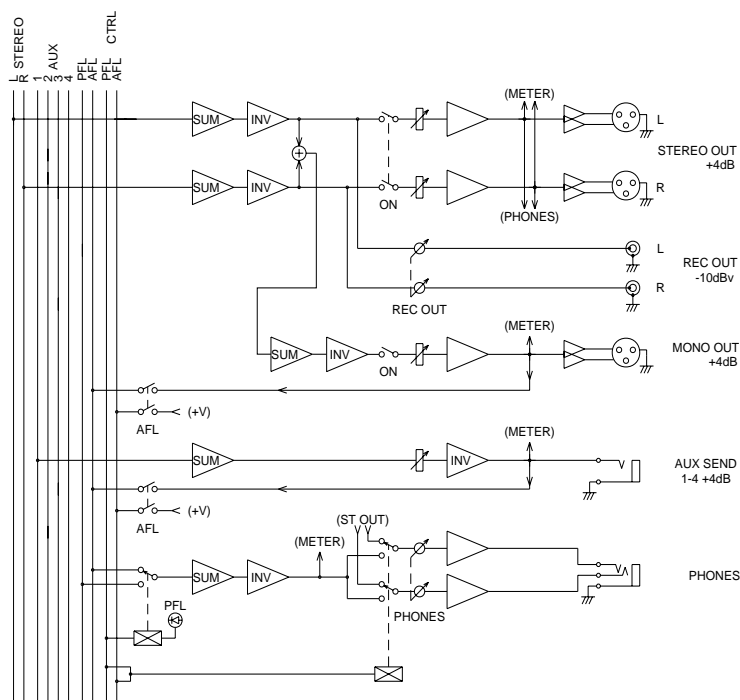
PHANTOMインジケータ

PHANTOMスイッチ（リアパネル ）をONにすると点灯します。

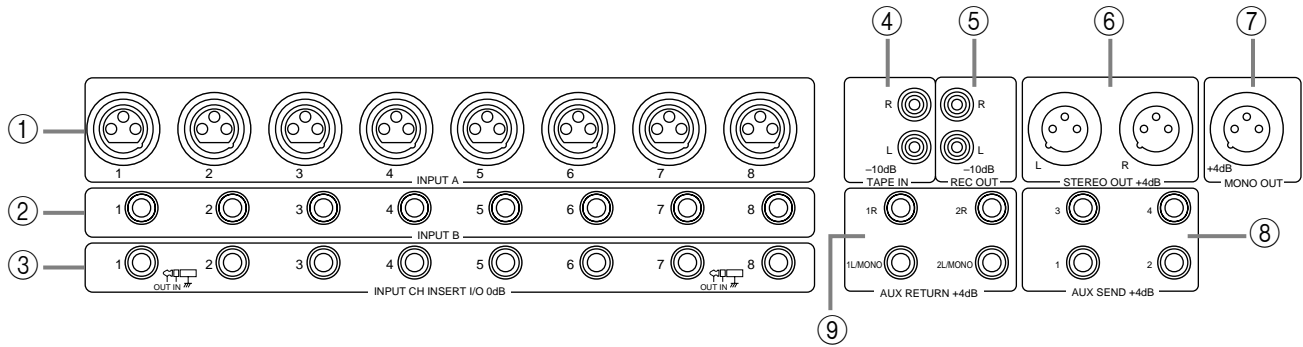
PFLインジケータ

チャンネルPFLスイッチ（チャンネルコントロール部 ）のいずれかがONになっている場合、このインジケータが点灯します。

このとき、メーター部のPFL/AFLメーターは、PFLをONにしたチャンネルのレベルを表示しています。



コネクター部



INPUT A

XLRタイプのコネクターです。

(1: シールド, 2: ホット, 3: コールド)

50 ~ 600 のマイクロフォンまたは600 のラインレベル機器に対応します。

なお、このコネクターには、PHANTOMスイッチ(リアパネル)をONにすることにより、2番および3番ピンにDC + 48Vを供給します。

INPUT B

バランス型フォンコネクターです。

(T: ホット, R: コールド, S: シールド)

50 ~ 600 のマイクロフォンまたは600 のラインレベル機器に対応します。

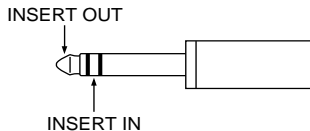
アンバランス型フォンプラグを接続しても使用できますが、ケーブルが長い場合や、放送電波などの電界強度が大きい場所ではノイズが混入することがあります。

INPUT CH INSERT I/O 0dB

インプットチャンネル部のヘッドアンプと、イコライザーの間に設けられた入出力端子です。

規定入力レベル/適合インピーダンスは0dB/600、規定出力レベル/適合インピーダンスは0dB/10k です。

お手持ちのグラフィックイコライザーやコンプレッサー、ノイズフィルターなどを挿入することができます。



TAPE IN

お手持ちのDATデッキやカセットデッキをダイレクトに接続し、モニターする場合はここを使用すると便利です。TAPE INコントロール(マスターコントロール部)でレベルを調整します。

REC OUT

お手持ちのDATデッキやカセットデッキにSTEREO OUTからの出力音声を録音する場合に用います。

この場合、最終出力レベルの調整はREC OUTコントロール(マスターコントロール部)で行い、STEREO L, Rフェーダーの設定は無関係となります。

STEREO OUT (L, R)

ミキシング音声のステレオ出力部で、メインスピーカーを駆動するパワーアンプなどを接続します。

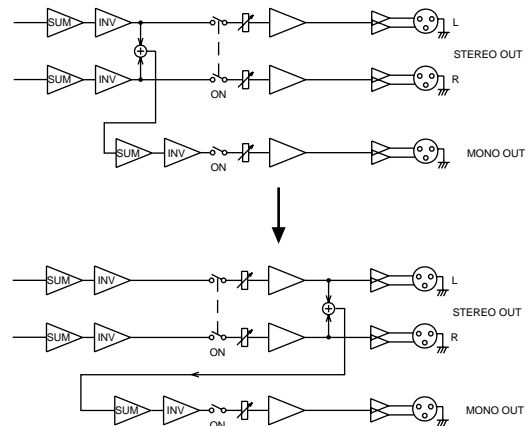
またSTEREO L, Rフェーダーでレベル調整された音声を録音する場合はここからの出力を録音します。

MONO OUT

MONO OUTの出力端子です。MONO OUT出力は、STEREO OUT信号をフェーダーの前でとり出してモノラルにしたものでライブ演奏のシンプルな録音やサブのパワーアンプの駆動、あるいはスピーカーの位相補正などにつかわれます。

内部ジャンパー線の切り替えで、STEREO OUT信号はフェーダーの後からとり出すこともできます。そのとき、MONO OUT出力はSTEREO ONスイッチと連動します。

ジャンパー線の切り替えが必要な場合はお買い上げの販売店にご相談ください。



AUX SEND (1, 2, 3, 4)

アンバランス型出力端子で、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは、+4dB/600 です。(AUX1, 2はプリフェーダー、AUX3, 4はポストフェーダー)

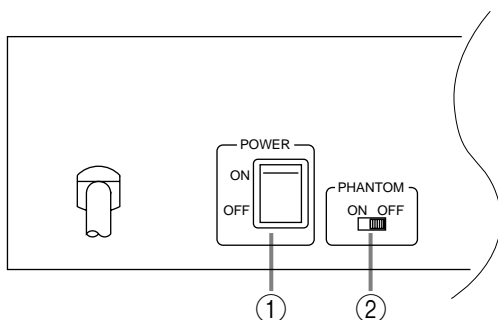
AUX RETURN (1L/MONO, 1R, 2L/MONO, 2R)

アンバランス型入力端子で、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは、+4dB/10k です。

リバーブやディレイなどのエフェクターからリターン音声を受ける使い方が一般的ですが、補助入力として使うこともできます。

L/MONOにだけプラグが入力された場合は、同じ信号がL, Rバスへ送出されます。

リアパネル



POWERスイッチ

ONにすると電源が入ります。

電源を落とすときはスピーカーに近い機器（通常はパワーアンプ）の電源から先に落とすのが、音響機器の取扱ルールです。

PHANTOMスイッチ

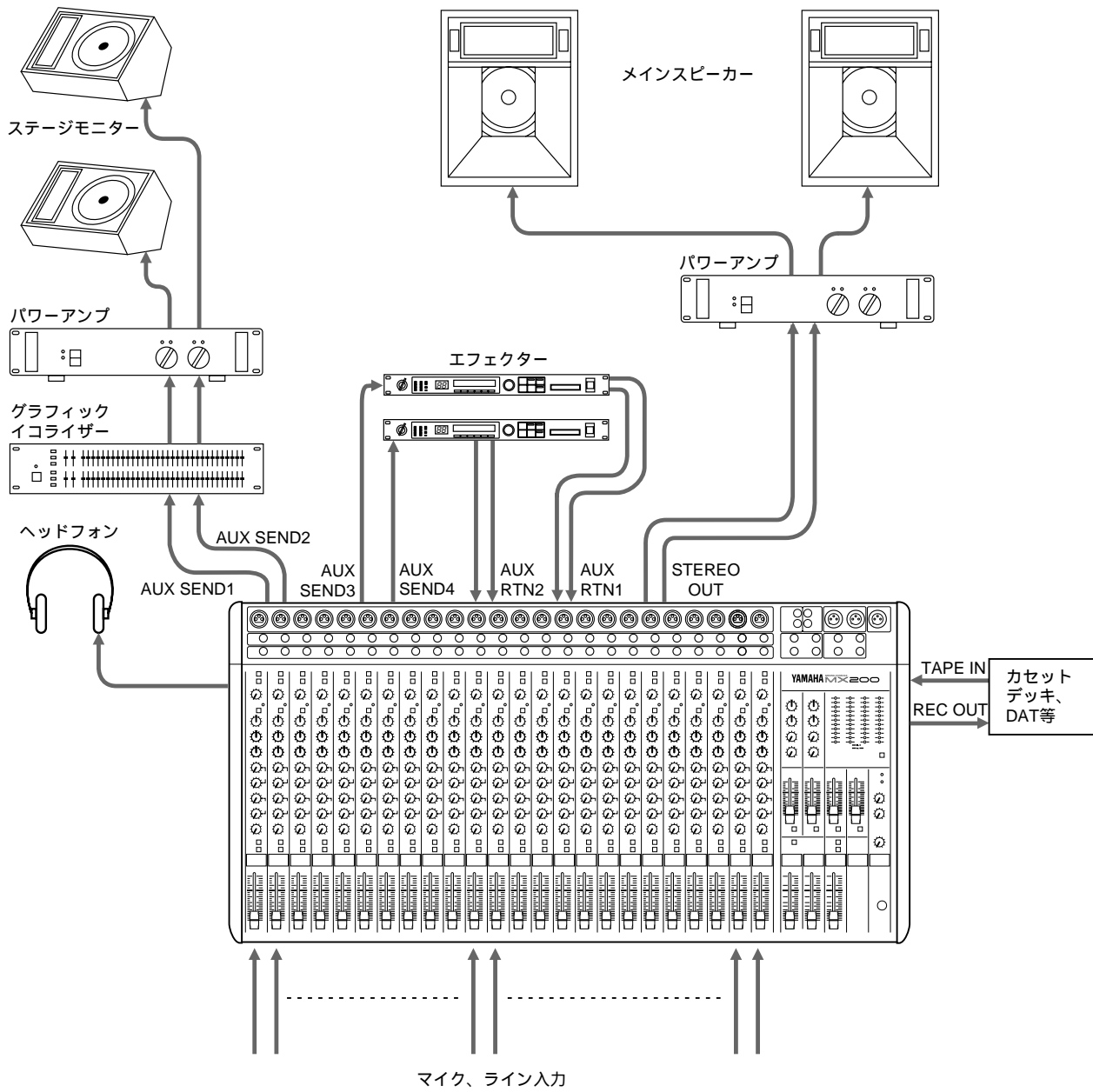
ファントム電源を全チャンネルまとめてON, OFFするスイッチです。

コンデンサーマイクロフォンを使用するとき使います。スイッチをONにすると、INPUT AのXLRタイプコネクターすべての2および3番ピンにDC + 48Vが供給されます。

ファントム電源を必要としないときは、必ずOFF側にしておいてください。

スイッチONの状態ではバランス型ダイナミックマイクロフォンやラインレベル機器を接続してもさしつかえありませんが、アンバランス型機器やトランスのセンターがアースされている機器を接続すると、ハムや故障の原因となります。

セットアップ例



仕様

一般仕様

最大出力レベル	+ 24dB(STEREO L/R) @600Ω, 0.5% THD at 1kHz + 24dB(MONO OUT) @600Ω, 0.5% THD at 1kHz + 20dB(AUX SEND) @600Ω, 0.5% THD at 1kHz	
全高調波歪率	< 0.1% @ + 14dB 20Hz ~ 20kHz (STEREO L/R, MONO, AUX SEND @600Ω)	
周波数特性	20Hz ~ 20kHz + 1dB, - 2dB (STEREO L/R, MONO, AUX SEND @600Ω)	
ハム & ノイズ (Average, Rs=150Ω) (Measured with DIN AUDIO)	- 127dB	入力換算ノイズ
	- 95dB	残留ノイズ(STEREO L/R, MONO)
	- 95dB	残留ノイズ(AUX SEND 1 ~ 4)
	- 88dB(STEREO, MONO)	マスターフェーダー: nominal 全チャンネルスイッチ: OFF
	- 63dB(67dB S/N) (STEREO, MONO)	マスターフェーダー & 1チャンネルフェーダー: nominal
	- 78dB(AUX SEND 1 ~ 4)	AUX SENDマスターフェーダー: nominal 全チャンネルスイッチ: OFF
	- 63dB(67dB S/N) (AUX SEND 1 ~ 4)	AUX SENDマスターフェーダー & 1チャンネルAUX: nominal
最大電圧ゲイン	84dB CH IN STEREO OUT 84dB CH IN MONO OUT 80dB CH IN AUX SEND 1, 2 90dB CH IN AUX SEND 3, 4 16dB AUX RETURN 1, 2 STEREO OUT 16dB AUX RETURN 1, 2 AUX SEND 1, 2 28dB TAPE IN 1, 2 STEREO OUT	
クロストーク at 1kHz	- 70dB 入力CH間 - 70dB 出力間	
ゲインコントロール(入力CH) パッドスイッチ(入力CH)	44dB 可変幅(- 60 ~ - 16dB) 0/20dB	
入力チャンネルイコライザー特性	最大可変幅 ±15dB HIGH 12kHz シェルピングタイプ MID 2.5kHz ピーキングタイプ LOW 80Hz シェルピングタイプ * ターンオーバー/ロールオフ周波数: 最大可変幅に対し3dB下がったポイント	
LEDメーター	10セグメントLED × 4 POWER(-) STEREO L/AUX SEND 1(switchable) STEREO R/ AUX SEND 2(switchable) MONO/AUX SEND 3(switchable) PFL or AFL/AUX SEND 4(switchable)	
チャンネルピークインジケーター	各チャンネルフェーダーの前段においてクリッピングレベルの3dB手前で点灯	
ファントム電源	+ 48V, DC	
電源/消費電力	MX200-8 100V AC 50/60Hz 40W MX200-12 100V AC 50/60Hz 45W MX200-16 100V AC 50/60Hz 50W MX200-24 100V AC 50/60Hz 65W	

最大外形寸法(W×H×D)	449×124.6×461.7 mm MX200-8 569×124.6×461.7 mm MX200-12 689×124.6×461.7 mm MX200-16 929×124.6×461.7 mm MX200-24
重量	9.5kg MX200-8 11kg MX200-12 13.5kg MX200-16 17kg MX200-24

0dB = 0.775Vrms

入力仕様

入力端子	PAD	ゲイン Trim	入力インピーダンス	ノミナルインピーダンス	入力レベル			使用コネクター
					感度	ノミナルレベル	最大ノックリップレベル	
CH Input	OFF (0dB)	- 60	4kΩ	50 ~ 600Ωマイク	- 80dB (77.5μV)	- 60dB (775μV)	- 40dB (7.75mV)	INPUT A XLR 3-31タイプ バランス型 INPUT B フォンジャック(TRS) T=ホット R=コールド S=GND
		ON (20dB)		- 16	&	- 36dB (12.3mV)	- 16dB (123 mV)	
					600Ωライン	- 16dB (123mV)	+ 4dB (1.23V)	
AUX RETURN (1, 2)			10kΩ	600Ωライン	- 12dB (195mV)	+ 4dB (1.23V)	+ 20dB (7.75V)	フォンジャック アンバランス型
INSERT IN		5kΩ	- 20dB (77.5mV)		0dB (775mV)	+ 20dB (7.75V)	フォンジャック(TRS) T=OUT R=IN S=GND	
TAPE IN		10kΩ	- 26dBV (50.1mV)		- 10dBV (316mV)	-	RCAピンジャック	

0dB = 0.775 Vrms
0dBV = 1Vrms

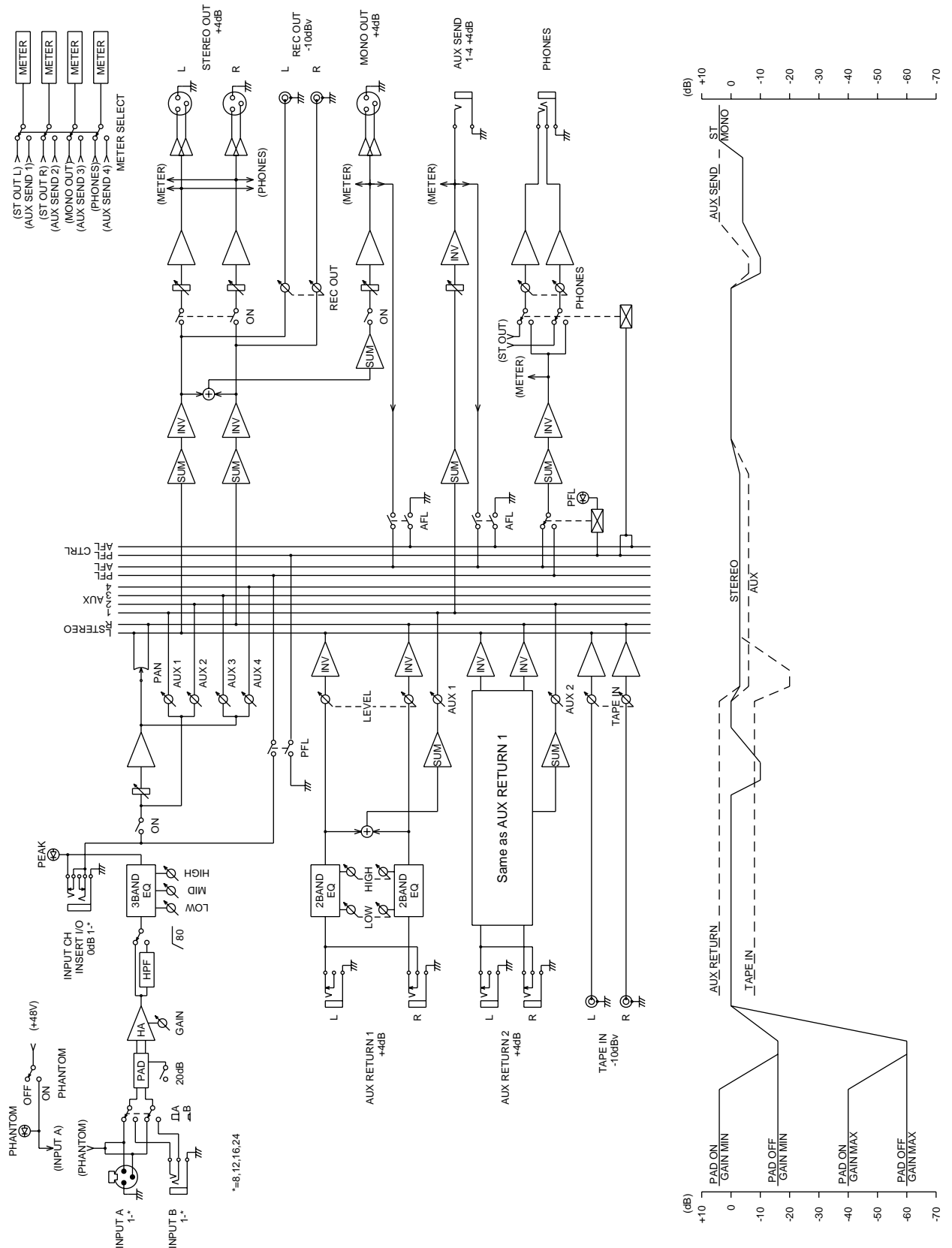
出力仕様

出力端子	出力インピーダンス	ノミナルインピーダンス	出力レベル		使用コネクター
			ノミナル	最大ノックリップレベル	
STEREO OUT L/R, MONO OUT	150Ω	600Ω Lines	+ 4dB (1.23V)	+ 24dB (12.3V)	XLR-3-32タイプ
REC OUT L/R	2kΩ	10kΩ Lines	- 10dBV (316mV)	+ 16dBV (6.31V)	RCAピンジャック
AUX SEND 1 ~ 4	75Ω	600Ω Lines	+ 4dB (1.23V)	+ 20dB (7.75V)	フォンジャック
INSERT OUT	600Ω	10kΩ Lines	0dB (775mV)	+ 20dB (7.75V)	フォンジャック(TRS) T=OUT R=IN S=GND
PHONES (head phone) OUT	100Ω	40Ω Phones	3mW	120mW	STフォンジャック

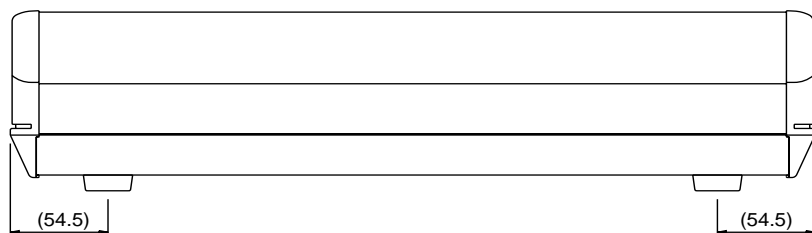
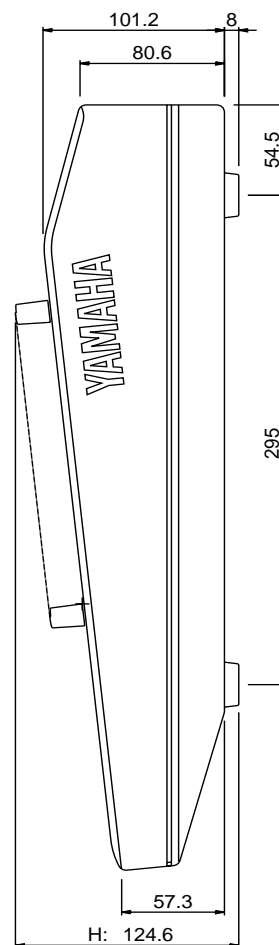
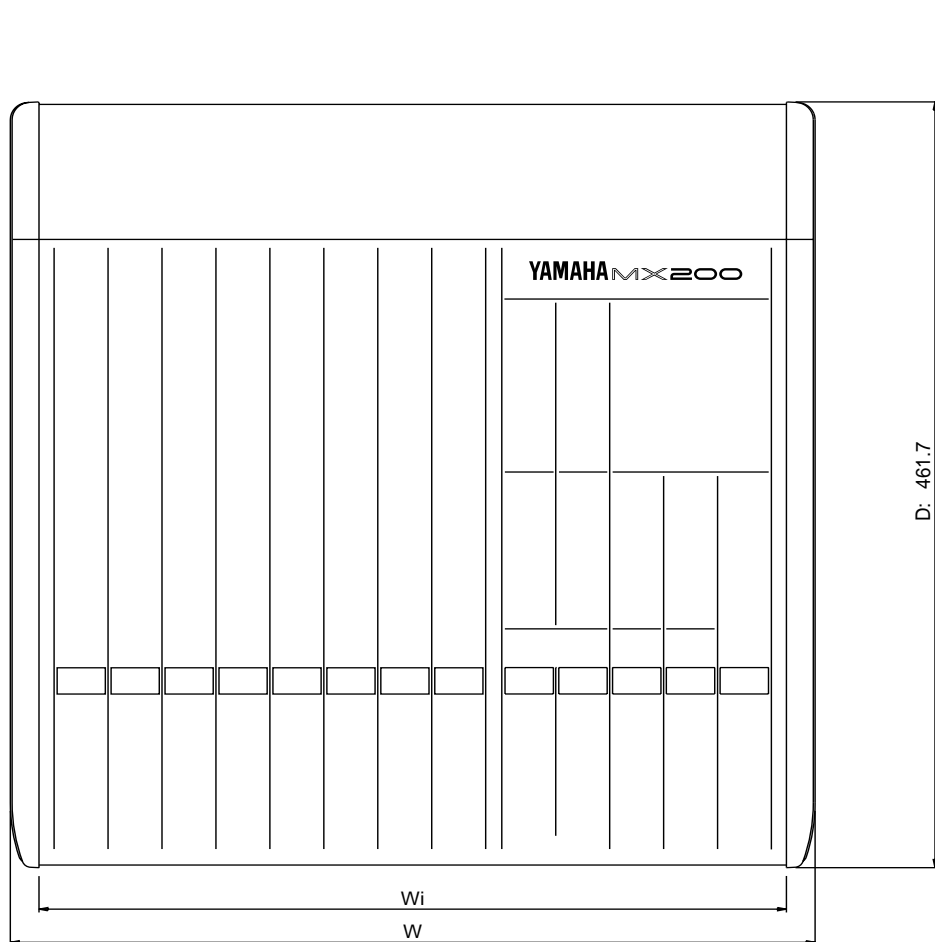
0dB = 0.775 Vrms
0dBV = 1Vrms

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ブロック & レベルダイアグラム



寸法図



MODEL	Wi	W
MX200-8	417	449
MX200-12	537	569
MX200-16	657	689
MX200-24	897	929

単位 : mm

サービスについて

保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめの上、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要となる場合は、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理に際しては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのもかも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいし、PA製品ではその最低保有期間は製造切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品に関するご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問い合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へお寄せください。

お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-6663 (電話受付 = 祝祭日を除く月～金 / 11:00～19:00)

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

EM営業統括部(営業窓口)

PAグループ

PA東京	☎ 03-5488-5480	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
PA北海道	☎ 011-512-6113	〒064-0810	札幌市中央区南十条西1-1-50
PA仙台	☎ 022-222-6214	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10
PA大阪	☎ 06-6252-5405	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9
PA名古屋	☎ 052-232-5744	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28
PA九州	☎ 092-412-5556	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4

企画推進室(プロオーディオ) ☎ 03-5488-5472 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

PA・DMI事業部

PE営業部PA国内推進室 ☎ 053-460-2455 〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスステーション	☎ 011-512-6108	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスステーション	☎ 022-236-0249	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F
首都圏サービスセンター	☎ 03-5762-2121	〒143-0006	東京都大田区平和島2-1-1 京浜トラックターミナル14号棟A-5F
浜松サービスステーション	☎ 053-465-6711	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-6877-5262	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスステーション	☎ 087-822-3045	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
広島サービスステーション	☎ 082-874-3787	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14
九州サービスステーション	☎ 092-472-2134	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/CSセンター	☎ 053-465-1158	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階

所在地・電話番号などは変更されることがあります。
2001年10月現在